

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PHR-O-L-4	信愛教育Ⅱ	二平京子	1	全学	通年 (前期)	必修
授業の概要	聖書と入門書をテキストとして、建学の精神の基礎となるキリスト教を学ぶ。 講義の他に、各種の講話や祈り、ミサなどの宗教行事への参加を通して、精神生活を豊かにし、奉仕の心を培う。					
授業の目標	建学の精神の基礎となるキリスト教の精神を理解し、幅広い教養に基づく豊かな人格形成を目指す。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	キリスト教的倫理観	キリスト教的価値観に基づき、正しさを選ぶ力を培う				
○	知識、理解	キリスト教に関する知識、理解を深め、建学の精神を身につける				
△	自己管理能力	積極的に授業に参加し、学び取る力を培う				
△	社会的責任	建学の精神を生活に活かす姿勢を身に付ける				
回	授業のテーマ及び内容	8	「神の国」のしるしとしての奇跡(2) グループ発表			
1	荒野の試み(ルカ4章) イエスの基本方針	9	「神の国」のしるしとしての奇跡(3) ポイントの確認とまとめ			
2	クラスミサ (前期中に実施) 聖歌練習・役割決め	10	イエスのたとえ話(1) —種まくひと(ルカ8章)・十人の乙女(マタイ25章)—			
3	クラスミサへの参加、記録用紙提出	11	イエスのたとえ話(2) —放蕩息子(ルカ15章)—①			
4	弟子たちの召命(マタイ4章)	12	イエスのたとえ話(3) —放蕩息子(ルカ15章)—②			
5	「神の国」のしるしとしての奇跡(1) 3種の奇跡を扱う課題に取り組む	13	イエスのたとえ話(3) —よきサマリア人(ルカ10章)—			
6	聖母祭ミサ 各自の意向決め・聖歌練習等	14	まとめ			
7	聖母祭ミサ ミサへの参加、(記録用紙提出)	15	特別講話 いのちの話			

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PHR-O-L-4	信愛教育Ⅱ	二平京子	1	全学	通年 (後期)	必修
回	授業のテーマ及び内容	23	イエスの受難 (3) 十字架上の7つの言葉 (4福音書)			
16	イエスに出会った人々(1) －徴税人ザーカイ(ルカ19章)－①	24	クリスマスミサ ミサへの参加 (記録文の提出)			
17	イエスに出会った人々(2) －徴税人ザーカイ(ルカ19章)－②	25	イエスの復活 マグダラのマリアへの出現(ヨハネ20章)			
18	イエスが出会った人々(3)－徴税人マタイ(マタイ10章)・悪魔につかされた人(マルコ5章)－	26	イエスの復活 弟子たちへの出現(ルカ24章 他)			
19	イエスに出会えなかった人々(4) －律法学者・ファリサイ派の人々等(マルコ11章 他)	27	日本における宣教活動			
20	追悼祭ミサへの参加 (記録文の提出)	28	マザーテレサ・ユスト高山右近の生涯			
21	イエスの 受難 (1) 最期の晩餐(ヨハネ15章)	29	学長講話 卒業を間近に控えて			
22	イエスの受難 (2) ユダの裏切り・弟子たちの離散(ヨハネ22章)	30	レポート作成・提出			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		40	20			60%
受講態度・授業への参加度		20		10	10	40%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書		『新約聖書』、『聖書入門』				
参 考 書		『賛美の歌』				
授 業 外 の 学 習 方 法		記録用紙等は、翌日までに提出する				
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 す る 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PSY-5-L-2	こころの科学	村上凡子	2	保育	前期	選択
授業の概要	目では見えない心のはたらきを行動が生み出される原動力として捉え、心理学の世界を探究する。身の周りに起こる事柄を感情、記憶などの観点から考える。また、より良い人間関係づくりや心の健康の保持に必要な事柄について、日常生活と関連させながら検討する。					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 心のはたらきと行動の関係について心理学の考え方をもとに理解することができる。 人間関係づくりに必要なコミュニケーション能力に関心をもち、実践的な態度を身につける。 個人や集団の行動のしくみに対して、論理的、科学的に探究する態度を身につける。 					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	コミュニケーションスキル	場面に応じた基本的な他者とのコミュニケーションスキルを身につける。				
○	知識・理解	記憶や感情など心のはたらきのしくみについて基礎的知識を習得する。				
△	論理的思考力・問題解決能力	正しい方法で心理学実験を行い、考察する能力を身につける。				
△	社会的責任	授業中の役割を適切に果たし、課題に取り組む。				
回	授業のテーマ及び内容	8	対人魅力:他者からみた自分の魅力、自分からみた他者の魅力について考える。			
1	こころとは何か:こころの本質について検討し、本科目の授業方法について把握する。	9	愛の心理学:心理学者が唱えた恋愛の型、愛のなりたちなどについて探究し、自分の考えをもつ。			
2	自己理解:コミュニケーション能力の観点から、自己評価を行い、自己理解を深める。	10	「カワイイ」の心理学:人や動物の赤ちゃんをみて、「カワイイ」と思う心のしくみを学ぶ。			
3	SNSの活用とリスク:SNSの使用から生じるリスクと望ましい活用法について学ぶ。	11	3つの心のはたらき:フロイトの理論をもとに、心のはたらきを検討する。			
4	ひとの感情:感情の理解や表現、感情の種類など感情の基本事項について学ぶ。	12	脳と心:脳がつかさどる計画力や注意集中力などについて実験を行い、自己評価を行う。			
5	非言語的コミュニケーション:視線や表情などのはたらきと実践を取り上げる。	13	記憶のしくみ:記憶の種類やしくみに関する学説を日常生活と関連付けて学ぶ。			
6	アサーション:より良い人間関係の構築のためにコミュニケーション法の「アサーション」を学ぶ。	14	視覚的記憶:実験を通して人の視覚的記憶の特徴を検討する。			
7	心の理論:イヌやチンパンジーなど、ヒト以外の動物の心を読む能力、心の理論を考える。	15	授業の振り返り:基礎的な心理学の知見を復習し、本科目で得たことを目標に沿ってまとめる。			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		60	20	10		90%
受講態度・授業への参加度					10	10%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書	特に指定しません。適宜資料を配布します。					
参 考 書	「心理学の基礎」 加藤 司 (編著) 樹村房 2007					
授 業 外 の 学 習 方 法	小テスト等に備えて復習課題を課す。次回用に配布した資料の予習、次回に向けた課題を行う。					
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 する 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PSY-3-L-2	こころの科学	森定美也子	2	食物	前期	選択
授業の概要	ストレスや喪失体験はネガティブにとらえられがちであるが、適度なストレスは人を成長させるものである。本講義では、こうした心理的なストレスや各発達段階の危機に焦点を当て、カウンセリングの技法や、障害者(児童)や高齢者の心理や援助について学習する。					
授業の目標	人間を理解するための心理学的基礎知識を基本として、これからの人生を生きていく上で避けられないストレスや喪失体験について理解を深めることを目的とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	コミュニケーションスキル	職場や地域の人々と良好な人間関係を作ることができる。				
○	知識・理解	人間を理解するための心理学的基礎知識を学習する。				
△	論理的思考力・問題解決力	論理的な思考を用いて人生の各発達段階の問題に取り組む。				
△	社会的責任	相手の立場を尊重し、自らの意見を伝えることができる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	高齢者の介護と心理 2 認知症の原因や関わり方を学習する。			
1	心理学の様々な領域 さまざまな領域の心理学について紹介する。	9	知的障害について ダウン症の原因や関わり方を学習する。			
2	人間関係の成り立ち 乳幼児期の基本的信頼感について学習する。	10	発達障害について 1 自閉症の原因について学習する。			
3	人間の発達 1 乳幼児期の心理的課題と危機を学習する。	11	発達障害について 2 軽度の自閉症の対応について学習する。			
4	人間の発達 2 青年期の心理的課題と危機について学習する。	12	発達障害について 4 注意欠陥多動性障害 (ADHD) を学習する。			
5	人間の発達 3 成人期の心理的課題と危機について学習する。	13	心の病気の理解と対応の仕方 うつ病などの心の病気について学習する。			
6	人間の発達 4 老年期の心理的課題と死の受容を学習する。	14	カウンセリングの基礎知識 カウンセリングの技法について学習する。			
7	高齢者の介護と心理 1 高齢者の介護や施設の様子について学習する。	15	まとめ			
成績評価方法(観点別)						
成績評価方法	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		40	20	5	5	70%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10	10			20%
受 講 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度				5	5	10%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	小野寺敦子 著 「手にとるように発達心理学がわかる本」 かんき出版					
参 考 書	戸部けいこ 著「光とともに 自閉症児を抱えて」秋田書店					
授 業 外 の 学 習 方 法	前回の内容を事前に復習しておくこと。					
免 許 ・ 資 格	医療秘書実務士必修科目					
地 域 に 関 する 学 習						
備 考						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PSY-1-L-3	人間関係論	伊藤 宏	2	生文	前期	選択
授業の概要	人は生きていく上で、必ず他者と関わっていかねばならない。そして、他者との関わりが個人のみならず集団や組織のあり方を左右する。この講義では心理学や社会学の知見に基づき、人間関係で生じやすい個人の行動パターンやリスクについて考察するとともに、組織における人間関係をより円滑にする手段を模索する。					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係において生じる行動のメカニズムについて理解する。 ・集団や組織における人間関係の重要性を理解する。 ・会社組織を想定して、考え得る様々な問題に対処するスキルを理解する。 					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	コミュニケーションスキル	他者と積極的に関わるコミュニケーション能力を身に付けられる。				
○	知識・理解	対人コミュニケーションの理論的な枠組みについて理解できる。				
△	論理的思考力・問題解決力	対人関係の問題をコミュニケーションの視点から分析し対応できる。				
△	社会的責任	社会に出た際にリーダーシップを発揮するためのスキルを理解できる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	異性間コミュニケーション その諸相と問題点			
1	はじめに (人間関係論を学ぶ意味)	9	世代間コミュニケーション その諸相と問題点			
2	人間関係における諸問題	10	組織とは何か 基礎集団との違い			
3	対人コミュニケーション コミュニケーションのメカニズム	11	組織における人間関係 会社におけるコミュニケーションスキル			
4	自己開示 ジョハリの窓による自己分析	12	リーダーシップとは何か			
5	自己提示 対人関係における自己	13	組織における葛藤処理			
6	人間関係の発展 出会いから別離まで	14	ビジネスでの人間関係 仕事に必要なコミュニケーションスキル			
7	対人交渉のスキル いかに関手を説得するか	15	まとめ			
成績評価方法(観点別)						
成績評価方法	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		50	20	5		75%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10		5		15%
受 講 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度					10	10%
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書	特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。					
参 考 書	松尾太加志著『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ 高橋純平・藤田綾子編『コミュニケーションとこれからの社会』ナカニシヤ					
授 業 外 の 学 習 方 法	毎回、授業終了時に与える課題にきちんと取り組むこと。					
免 許 ・ 資 格	情報処理士 [㊟] ・上級情報処理士 [㊟] 選択必修科目、 秘書士 [㊟] ・上級秘書士 [㊟] 、上級秘書士 [㊟] (メディカル秘書) 選択科目					
地 域 に 関 す る 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KEP-0-L-2	地域経済論	濱田智司	2	全科	前期	選択必修
授業の概要	和歌山の街（まち）の興隆と衰退の歴史、街づくりに対する行政の施策、他地域の街づくり先進事例を学んだ後、新たなまちづくり手法として注目されているリノベーションまちづくりについて学び、今後、自らが「できること、しなければいけないこと」等を考える。					
授業の目標	本講座では、決して他人事では済まされない“街の衰退”について、地域経済の再生の観点から現状を学び、今後の“まちづくり”のあり方を考えつつ、自らの責任と積極的な社会参画の意識を持つことで、社会人として地域貢献への自覚を高めることを目標とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	まちづくりの現状や発展の歴史、街づくりの具体的手法等を理解する				
○	論理的思考力・問題解決力	明確な解決策が無いまちづくりにどうやって対応していくかを学ぶ				
△	自己管理能力	学ぶという意識を明確に持てるか				
△	社会的責任	地域経済への私たちの持つ責任を理解する				
回	授業のテーマ及び内容	8	【先進事例研究①】和歌山県湯浅町のまちづくり事例を学ぶ。			
1	【戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状】戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状を概観する。	9	【先進事例研究②】長野県飯田市のまちづくり事例を学ぶ。			
2	【和歌山経済の変遷①】維新後の和歌山市の状況を概観し、街の成立の歴史的経緯を学ぶ。	10	【先進事例研究③】高松市丸亀町商店街のまちづくり事例を学ぶ。			
3	【和歌山経済の変遷②】和歌山の経済的な特徴を概観し、高齢化率や県内生産性の低下等の現状を学ぶ。	11	【先進事例研究④】まちづくり失敗事例から、その原因を学ぶ。			
4	【国のまちづくり施策①】まちづくりに必要な5つの視点や役割、要素等を学ぶ。	12	【リノベーションまちづくり①】リノベーションまちづくりとは何かを学ぶ。			
5	【県と市のまちづくり施策①】街づくり関連法制度等、街の衰退に対し県が行ってきた施策等を学ぶ。	13	【リノベーションまちづくり②】リノバスクールでの提案概要を学ぶ。			
6	【県と市のまちづくり施策②】和歌山市が取り組んできた中心市街地活性化法について学ぶ。	14	【まちづくりのトップリーダーの話を聴く①】リノベーションまちづくりに関し、和歌山で活躍されている人物の体験談を聴く。			
7	【県と市のまちづくり施策③】「2030わかやま構想」の概要について学ぶ。	15	【まちづくりのトップリーダーの話を聴く②】前回のリーダーの話から街づくりの在り方を話し合う。			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		50	20			70%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等			10			10%
受講態度・授業への参加度				10	10	20%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない。適宜資料を配布する。					
参 考 書	シャッター通り再生計画 足立基浩著 ミネルヴァ書房刊 2010年					
授 業 外 の 学 習 方 法	興味のあるまちづくりの事例をネット等で調べておくこと。					
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 す る 学 習	該当あり					
備 考	14 回目に予定されている「まちづくりのトップリーダー体験談」については、その方の都合で13回目、もしくは、15回目に変更される可能性があります。					

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KEH-0-L-2	紀の国の食文化	藤澤祥子	2	全学	前期	選択必修
授業の概要	紀伊国・和歌山の食文化は、温暖な気候と縦長の地形により、豊かな沢山の文化が生まれ育っている。川・山・海の文化がそれに拍車をかけ宗教風土も加わり、持ちきれんばかりの素晴らしい「食文化」が存在していることを理解する。					
授業の目標	紀の国の食文化を学ぶことにより、地域で伝承に力を注ぐ人達の声もきき、恵まれた地産食材と生産地である郷土に愛着を感じ、感謝できるよう学習する。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	紀の国の食文化について地域的区分の中で歴史的背景も合わせて学習する。				
○	論理的思考力・問題解決力	紀の国の食文化の価値を希薄になりつつある伝承の問題点を学習する。				
△	自己管理能力	食文化として行事食や郷土料理そして日常食の価値を考える。				
△	社会的責任	食文化のこれからも考え伝承すべき事項と方法を学習する。				
回	授業のテーマ及び内容	8	熊野の食① 山間 伝承される味覚			
1	ガイダンス 具体的授業の進め方と目標について説明	9	熊野の食② 灘			
2	和歌山の食とその背景	10	熊野の食② 灘 伝承される味覚			
3	紀の川流域の食	11	太地の食(鯨)			
4	紀の川流域の食 伝承される味覚	12	田辺湾の魚と食			
5	和歌浦沿岸の食	13	宗教風土と食① 熊野			
6	和歌浦沿岸の食 伝承される味覚	14	宗教風土と食① 高野山			
7	熊野の食① 山間	15	まとめ			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		30	10			40%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		20	10	10		40%
受講態度・授業への参加度		10			10	20%
その 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布					
参 考 書	社団法人 農山漁村文化協会発行「日本の食生活全集 和歌山の食事」 安藤精一編					
授 業 外 の 学 習 方 法	年間の行事及び行事食や郷土料理への体験姿勢を保つこと。					
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 する 学 習	該当あり					
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KCS-O-L-2	地域子育て・子育て支援論	森下順子	2	生文 食物	前期	選択
授業の概要	本科目は、和歌山県を中心とした地域の子育て・子育て支援について理解し、専門的知識を身につけて地域貢献ができる人材育成を目指す。厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習と同等の内容を満たしている授業である(和歌山県福祉保健部認定)。					
授業の目標	本学独自の認定資格「子育て・子育てサポーター」取得のための基礎的知識を身につける。和歌山を中心とした子育てや子育ての現状を学び、地域課題に向き合い、将来は地域のリーダーとして社会貢献できることを目標とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	和歌山を中心とした子育て・子育ての現状が理解できる。				
○	論理的思考力・問題解決力	地域の課題解決に向き合おうとする意欲が芽生える。				
△	自己管理能力	積極的に授業に取り組むことができる。				
△	社会的責任	社会からの期待を感じ取り将来に向けての自覚が芽生える。				
回	授業のテーマ及び内容	8	病院への受診について			
1	オリエンテーション・保育のこころ	9	看護要する子どもの家庭での工夫 安全と事故対応(応急処置)			
2	子育てをめぐる現状と課題について 子育て支援施設見学	10	安全と事故対応対策			
3	子どもの健やかな発達について 親子ふれあい体験	11	子どもの世話 講義と実践			
4	子どもの発達と発達障がい 親子ふれあい体験	12	子どもの栄養と食生活 講義と調査			
5	子どもの豊かな育ちのための保護者支援 親子ふれあい体験	13	子どもの栄養と食生活 講義と調査			
6	子どもの病気(感染する病気・急を要する病気)	14	子どもの遊び 実践			
7	子どもの看護のポイントと家庭での工夫	15	和歌山の子育てと未来			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		40				40%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10	30			40%
受講態度・授業への参加度				10	10	20%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	なし					
参 考 書	金山美和子他「みんなでつくる子育て支援 上越市マミーズ・ネットの挑戦」子どもの未来社					
授 業 外 の 学 習 方 法	学内子育て支援施設を自主見学しておくこと。地域の子育て支援事業を把握する。					
免 許 ・ 資 格	子育て・子育てサポーター認定資格必修科目					
地 域 に 関 す る 学 習	該当有り					
備 考	A4 版フラットファイル1冊 (初回に説明します)					

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
PUL-5-L-1	日本国憲法	奥野庸己	2	保育	後期	選択
授業の概要	憲法の基本原理を理解したうえで、日本国憲法の各規定を見ていき、それら基本原理が日本国憲法の中でどのように反映され、どのように保障されているか明らかにする。 なお、身近な憲法問題について関心を持って講義に臨むことを希望する。					
授業の目標	日常生活において、憲法を特に意識して生活している者は少ないことと思われる。 そこで、憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	教育的愛情	基本的人権について理解し教育現場に反映させる能力を習得する				
○	知識・理解	日本国憲法について基本的な知識を習得する。				
△	自己管理能力	積極的に授業に取り組むことが出来る。				
△	社会的責任	日本国憲法の知識を社会生活に反映させる能力を習得する				
回	授業のテーマ及び内容	8	基本的人権の保障7 生存権、教育を受ける権利などの社会権について意義・内容を学ぶ。			
1	憲法総論 一般的な憲法の歴史と基本原理をふまえ、日本国憲法の成立過程・構造・基本原理を学ぶ。	9	基本的人権の保障8 適正手続きの保障などの人身の自由、国務請求権、参政権についてその意義・内容について学ぶ。			
2	本的人権の保障1 人権の歴史、類型、保障の範囲など人権に関して概要を学ぶ。	10	統治1 日本国憲法における国の政治システムである統治の基本原理について学ぶ。			
3	基本的人権の保障2 包括的な人権とされる幸福追求権と法の下での平等についてどのように保障されているか学ぶ。	11	統治2 三権のうち立法権の意味・概念、及びそれを担う国会の地位、組織、権能について学ぶ。			
4	基本的人権の保障3 精神的自由権のうち、思想良心の自由、宗教の自由、学問の自由について学ぶ。	12	統治3 三権のうち行政権の概念、及びそれを担う内閣の組織と権能、その他制度について学ぶ。			
5	基本的人権の保障4 表現の自由について、その意義や重要性について学ぶ。	13	統治3 三権のうち司法権概念、それを担う裁判所の組織と特質、違憲審査制度について学ぶ。			
6	基本的人権の保障5 検閲の禁止、集会・結社の自由、通信の秘密についてその意義などを学ぶ。	14	統治4 税や予算といった国家の財政と地方自治制度の内容、問題点について学ぶ。			
7	基本的人権の保障6 職業選択の自由、居住移住の自由、財産権などの経済的自由権の内容・意義について学ぶ。	15	まとめ これまでの授業内容を振り返り不足部分を補う。			
成績評価方法(観点別)						
成績評価方法	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		25	35		10	70%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		20				20%
受 講 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度				10		10%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		45%	35%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない。適宜資料を配布する					
参 考 書	「憲法ってなんだろう」					
授 業 外 の 学 習 方 法	身近な憲法問題探しそれに関心を持つ					
免 許 ・ 資 格	幼稚園教諭2種免許状必修科目					
地 域 に 関 する 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
SOC-1-L-4	情報文化論	伊藤 宏	2	生文	後期	選択
授業の概要	私たちは情報の中に生きているといっても過言ではない。情報のない文化、生活はありえないし、私たちは情報を使っているというよりも、情報に使われているという側面が多々ある。この講義では、私たちの日常生活にも影響する情報のあり方について様々な側面から考察する。					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な媒体から得られる情報の収集法、活用法を理解する。 ・情報を使いこなし、自分の考えを述べられるようになる。 ・現代日本の文化的な特徴を情報発信、情報受信の観点から理解する。 					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	数量的スキル・情報リテラシー	情報の内容分析を通じて現代の社会状況を知ることができる。				
○	知識・理解	メディアと文化・現代社会との関連性を理解することができる。				
△	論理的思考力・問題解決力	現代の社会状況を自分なりに捉え、考察することができる。				
△	社会的責任	主権者としての自覚を持つことができる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	ニュースから読み解く現代社会② テレビ報道の捉え方			
1	はじめに（「情報」とは何か）	9	情報と商品経済	流行の作り出され方		
2	情報文化学の考え方	10	情報と人権	メディアによる人権侵害		
3	情報メディアと文化変容 メディアの変遷で辿る文化史	11	情報と女性	メディアにおける女性の描かれ方		
4	民主主義とジャーナリズム① 民主主義とは何か	12	情報の多様化	インターネットの普及		
5	民主主義とジャーナリズム② ジャーナリズムによる世論形成	13	SNSの功罪	人間関係への影響		
6	民主主義とジャーナリズム③ 新聞・テレビの影響	14	情報とグローカリゼーション			
7	ニュースから読み解く現代社会① 新聞報道の読み方	15	まとめ			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		50	20			70%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10		5	10	25%
受講態度・授業への参加度				5		5%
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書	特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。					
参 考 書	・伊藤守著『テレビニュースの社会学』世界思想社 ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善 ・佐藤毅著『マスコミの受容理論』法政大学出版社					
授 業 外 の 学 習 方 法	毎回、授業終了時に与える課題にきちんと取り組むこと。					
免 許 ・ 資 格	情報処理士 [㊞] ・上級情報処理士 [㊞] 選択必修科目、 秘書士 [㊞] ・上級秘書士 [㊞] 、上級秘書士 [㊞] （メディカル秘書）選択科目					
地 域 に 関 す る 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
CAE-5-L-2	キャリアデザイン	村上凡子	2	保育	前期	選択
授業の概要	一人の社会人、保育者として生涯にわたり自己実現を図るために必要な基礎力を身につける演習を取り入れる。文章力の向上、基本的な接遇能力やコミュニケーションスキルの向上を図るための実技を導入し、振り返りを行いながら互いに人格を高め合う機会とする。					
授業の目標	社会や保育現場の要請に応えられる社会人像、保育者像に近づくために、就職活動から就職後を通して、各自が努力を継続し得る基盤となる能力を涵養する。具体的には、ビジネスマナーの基本、職場での会話力、プレゼンテーション能力など社会人としての基礎力を高める。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	社会的責任	保育者としての職責を果たすための実務能力を身につける。				
○	コミュニケーションスキル	自己理解の基本的な方法、コミュニケーションスキルを身につける				
△	生涯学習力	課題に合う資料収集力、基礎的なプレゼンテーション能力を習得する。				
△						
回	授業のテーマ及び内容	8	面接の受け方：基本的な作法を踏まえて、効果的な自己アピールの方法を学ぶ。			
1	社会人とは：自ら目指す理想の保育者像を確認し、社会人としての意識づくりを行う。	9	文章作法の演習①：文章作法の原則を確認し、課題作文の演習に取り組む。			
2	就職活動の実際：エントリーから内定に至る過程について詳しく学ぶ。	10	文章作法の演習②：新たな課題作文の演習に取り組む。			
3	自己理解の演習：心理検査の結果に基づき、自己理解した事柄を文章化する。	11	効果的なプレゼンテーション：視覚的情報を用いて、人前で発表するための基本的原則を学ぶ。			
4	目指すべき保育者像：各自の目指す保育者像について検討し、文章化する。	12	職場での会話力：職業人として身につけるべき言語的コミュニケーションの基本を学ぶ。			
5	履歴書の作成①：自己分析の演習をもとに、自己アピールの内容を文章化する。	13	人間関係の築き方：職場での望ましい人間関係の築き方について体験的に学ぶ。			
6	履歴書の作成②：志望先に関する情報収集を行い、志望動機を文章化する。	14	保育職と現代社会：現代社会の情勢と保育職の重要性を確認し、自己の未来像を展望する。			
7	ビジネス作法の基本：社会人としての接遇の基本について学ぶ。	15	授業の振り返り：授業全体を振り返り、要点を確認し、学修したことを文章にまとめる。			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		50	30			80%
受講態度・授業への参加度				20		20%
その他(自由記述)						
評価の割合(%)		50%	30%	20%		100%
教 科 書	「なせば成る スタートアップセミナー学習マニュアル」 山形大学出版会					
参 考 書	塩谷香監著「保育者のマナーと常識」 少年写真新聞社					
授業外の学習方法	予習・復習課題を行う。					
免許・資格						
地域に関する学習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
CAR-3-L-2	キャリアデザイン	専任教員	2	食物	通年	選択
授業の概要	栄養士を含め、自分が将来就職する職業について、情報を収集し、理解を深めます。自分の将来像を主体的に構想し、設計して、その将来像に近づくために必要なスキルを、計画的、意欲的に獲得する過程を学びます。自己管理能力や社会的責任を自覚して行動できる地域社会に貢献する職業人を目指します。					
授業の目標	多くの学生が就職する職業である栄養士を題材とします。学外で実施される実習に向けて、栄養士の現場を知り、円滑に業務を遂行するために必要な社会通念やコミュニケーションスキルを磨くとともに、栄養士実職認定試験への準備や、栄養士の資質向上の授業を通して、生涯学習力を培うための総合的な学習をします。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	生涯学習力	自ら進んで知識技能の獲得に積極的に取り組むことができる				
○	コミュニケーションスキル	他者の考えを理解し、自己の考えを明確にして意見交換ができる				
△	自己管理能力	遅刻や欠席をせず、計画的、意欲的に目標達成に取り組むことができる				
△	社会的責任	求められていることを把握し、その実現に努力できる				
回	授業のテーマ及び内容	8	⑥実習に必要なとなるスキルについて学びます			
1	ガイダンス:キャリアデザインとしての実習ガイダンスと実力試験セミナー	9	栄養士実力認定試験と社会:栄養士として地域で活躍するために必要な資質の向上力を培います			
2	学外における実習と社会:地域社会の中で活躍する栄養士について学びます	10	①社会生活と健康			
3	①病院の栄養士	11	②人体の構造と機能			
4	②老健施設の栄養士	12	③食品と衛生			
5	③給食会社の栄養士	13	④栄養と健康			
6	④学校の栄養士	14	⑤栄養の指導			
7	⑤保育所の栄養士	15	⑥給食の運営			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等						
受講態度・授業への参加度		10		10		20%
実習と実力認定試験の評価		40	30		10	80%
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書		必要に応じて指示します				
参 考 書		必要に応じて指示します				
授 業 外 の 学 習 方 法		自分の将来像を描くのに役立つと判断した学習内容を自分で整理してまとめる				
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 す る 学 習						
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
BIO-5-L-2	自然と生物	芝田史仁	2	保育	前期	選択
授業の概要	遺伝、進化、生態系、生物多様性と環境問題をキーワードに、地球上に生息する多様な生命がいかにもたらされたのか、なぜ、生命の多様性保全が重要なのか、その答えを探る授業である。					
授業の目標	生命の多様性をもたらす要因とその重要性を理解し、地球という船に乗る生命の一員として、我々人はどうあるべきか、考え、行動する力を身につけることを目標とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	論理的思考力・問題解決力	生物多様性保全における課題を認識し、解決方法を提案できる。				
○	知識・理解	生物多様性の生物学的背景について理解している。				
△	社会的責任	生物多様性保全の意義と責任を理解し、行動する意思がある。				
△	自己管理能力	積極的に授業に参加し、内容理解に努めることができる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	種の多様性と進化(2) 性選択			
1	イントロダクション 生物多様性とは？	9	種の多様性の現状(1) 生物の分類体系(植物)			
2	遺伝子の多様性(1) 遺伝子	10	種の多様性の現状(2) 生物の分類体系(動物)			
3	遺伝子の多様性(2) 多様性を作る仕組み:突然変異と減数分裂	11	生態系の多様性 I 生態系とは			
4	遺伝子の多様性(3) 遺伝の仕組み	12	生態系の多様性 II 種間関係			
5	遺伝子の多様性と私たちの未来 I (調べ学習) PCR 法、遺伝子組み換え、クローン技術等	13	生物多様性の危機 I 人間活動の影響について考える。			
6	遺伝子の多様性と私たちの未来 II (発表) 調べた内容を発表する。	14	生物多様性の危機(調べ学習) 和歌山の事例について調べる。			
7	種の多様性と進化(1) 自然選択と適応	15	発表とまとめ 私たちはどうあるべきか？(レポート作成)			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		30	30			60%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		20		10		30%
受講態度・授業への参加度					10	10%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	特になし。適宜資料を配付する。					
参 考 書	T. Greenwood 他著『ワークブックで学ぶ生物学の基礎』オーム社					
授 業 外 の 学 習 方 法	前回の授業内容を復習して、授業に臨むこと。					
免 許 ・ 資 格						
地 域 に 関 する 学 習	該当有り					
備 考						

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
INF-5-L-3	情報処理演習	中西淳平	2	保育	後期	選択
授業の概要	インターネットを活用した情報の収集方法やワードプロセッサによる論文とレポートの作成方法、表計算ソフトウェアによるデータ処理などに必要なコンピュータリテラシーについて学習します。					
授業の目標	現代社会を支える情報技術について学び、情報活用の実践力をふまえたコンピュータ操作を学びます。個の演習を通して、専門教育科目の学習場面で直面すると予想される問題解決のために、コンピュータを効果的に活用するための科学的思考力を養うことを目標とします。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	数量的スキル・情報リテラシー	積極的に情報機器を操作して必要な情報加工ができる				
○	保育の指導力	技能習得に向けて努力ができる				
△	知識・理解	基礎知識と基本操作を着実に獲得している				
△	社会的責任	求められていることを把握し、その実現に努力できる				
回	授業のテーマ及び内容	8	表計算ソフトウェア入門:ワークシート上のセルとデータの属性について学びます			
1	ガイダンス:共同利用のコンピュータ室の利用方法やマナー、授業計画を把握します	9	表計算ソフトウェアの基礎:基本的な数値関数を利用したクロス集計について学びます			
2	日本語入力の活用:ローマ字入力の練習を行います	10	相関係数の算出:複数の変量の間に関連性を評価する方法を学びます			
3	日本語ワードプロセッサ入門:文書中の文字データを編集ボタンを使って編集する練習をします	11	表計算によるデータ処理①:条件判定に論理関数のIF関数を学びます			
4	文書編集:ファイルで用意した文字データを使って、文書作成作業を練習します	12	表計算によるデータ処理②:行列検索関数のVLOOKUP関数を学びます			
5	文書作成①:与えられた原稿を体裁の良い文書に効率よく短時間でまとめる練習をします	13	論理関数の使い方と行列検索関数の使い方を比較しながら、方法を学びます			
6	文書作成②:原稿を箇条書きや表を使って体裁の良い文書にまとめる練習をします	14	グラフの利用:情報を誤解なく伝えるために最適なグラフを選び、編集する技能を学びます			
7	課題1(文書作成):文書作成、文書編集をして、目的の文書を完成させます	15	総合課題:表とグラフを効果的に用いて情報を視覚化し、体裁良くまとめます。			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		50		10		60%
受 講 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度			30		10	40%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	授業時にプリントを配付する					
参 考 書	高橋三雄著「パソコンソフト実践活用術」岩波新書					
授 業 外 の 学 習 方 法	次回の授業までに、授業時間内にやり残した演習問題を完成させ、前回の授業で学んだ内容を復習しておくこと					
免 許 ・ 資 格	幼稚園教諭2種免許状必修科目					
地 域 に 関 する 学 習						
備 考	演習で使用するUSBメモリを準備しておくこと					

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
INF-3-L-3	情報処理演習	中西淳平	2	食物	前期	選択
授業の概要	表計算ソフトウェアの基本操作の修得過程を通して、コンピュータによる情報の表現を学ぶとともに、記述統計学を題材にして栄養士業務に必要な不可欠な情報の有効活用を、実践的に学びます。さらにインターネットによる情報の収集についても学びます。					
授業の目標	栄養指導論で扱う情報やデータについて、記述統計学を中心に基本統計量の意味とその算出方法を学びます。また、献立作成に伴う栄養価計算、集団給食での食品群別加重平均成分値の算出など実用的な処理のための基礎技能の習得と科学的思考力を養うことを目標とします。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	数量的スキル・情報リテラシー	積極的に情報機器を操作して必要な情報加工ができる				
○	論理的思考力・問題解決力	現状の分析と把握ができ、科学的な考え方や推論ができる				
△	コミュニケーションスキル	他者の考えを理解し、自己の考えを明確にして意見交換ができる				
△	栄養と健康に関する知識と技能	栄養指導に情報機器を利用できる				
回	授業のテーマ及び内容	8	相関係数の算出: 複数の変量の間に関連性を評価する方法を学びます			
1	コンピュータの基本操作: ソフトウェアについて学び、タイピングと日本語処理の練習をします	9	回帰直線: 複数の変量の間に関連性を視覚的に捉え、統計的な法則を導くことを学ぶ			
2	表計算ソフトウェア入門: ワークシートとその情報単位セルについて学びます	10	論理関数とそれを利用した条件設定: 論理関数を学び、ある種の条件判定に応用します			
3	入力データの属性: セルに確保されたデータと、そのデータの属性について学びます	11	表計算によるデータ処理: 行列検索関数のVLOOKUP関数を学びます			
4	記述統計処理・基本統計量の算出: ガイダンスで見た基本統計量を数値関数で算出します	12	栄養価計算への応用: 食品構成と食品群別加重平均成分値から栄養価計算をします			
5	階級分類: 数値集団を整理して度数分布表にまとめて、集団を把握することを学びます	13	食品群別加重平均成分値の算出: 実施献立から食品群別加重平均成分値を算出します			
6	集団のデータ処理: 測定値集団から基本統計量を算出し、集団の位置を特定します	14	総合演習: 大量のデータを整理、分析するための処理を練習します			
7	並べ替え・データベース関数の利用: レコードを情報単位とする数値集団を学びます	15	総合課題: 表とグラフを効果的に用いて情報を視覚化し、体裁良くまとめます。			
成績評価方法(観点別)						
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験						
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		50			10	60%
受 講 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度			30	10		40%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書		授業時にプリントを配付する				
参 考 書		高橋三雄著「パソコンソフト実践活用術」岩波新書				
授 業 外 の 学 習 方 法		次回の授業までに、授業時間内にやり残した演習問題を完成させ、前回の授業で学んだ内容を復習しておくこと				
免 許 ・ 資 格		医療秘書実務士称号資格必修科目				
地 域 に 関 する 学 習						
備 考		演習で使用するUSBメモリを準備しておくこと				